

農林水産省の農福連携の取組

令和6年12月

農林水産省 関東農政局 神奈川県拠点

渡辺 健治：農林水産省 関東農政局 地方参事官（神奈川県担当）

農福連携の歩み

～H18
(2006)

先進的な農業経営体や福祉事業者による農業分野での障害者就労

- 先進的な農業経営体や福祉事業者により、農業分野での障害者就労の取組が始まる。
(社)白鳩会が農業生産法人「根占生産組合」を設立〔S53〕、(株)京丸園が障害者雇用を開始〔H8〕、(有)岡山県農商が障害者雇用を開始〔H11〕ほか。

H19
(2007)

農業分野での障害者雇用の推進

- 新たな「重点施策実施5か年計画」(H19.2障害者施策推進本部決定)…農業法人等への障害者雇用の推進

H23
(2011)

農業と他分野との関わりに対する支援を開始

- 農林水産省の交付金事業において、農業・農村を医療や介護の場として活用する取組を支援。

H28
(2016)

「農福連携」の推進

- 「ニッポン一億総活躍プラン」(H28.6閣議決定)…障害者の心身にプラスの効果がある農福連携を推進
- 「経済財政運営と改革の基本方針」(H30.6閣議決定)…農福連携を含めた就労・社会生活を促進
- 「未来投資戦略2018(成長戦略)」(H30.6閣議決定)…農福連携により高齢者、障害者、生活困窮者の就労を進める
- 新たなJAS(特色JAS)の1つとして、「ノウフクJAS」が定められた(H31.3)。

国の計画に「農福連携」という言葉が用いられた。

H30
(2018)

「農福連携等推進ビジョン」決定

- 農福連携を強力に推進するため、内閣官房長官を議長とし、関係各省及び有識者からなる農福連携等推進会議において、「農福連携等推進ビジョン」を決定(R元.6)。関係省庁とともに実施する今後の取組が位置付けられた。

ノウフクJAS認証
第1号

R元
(2019)

食料・農業・農村基本法の改正

- 令和6年6月5日に公布・施行された改正食料・農業・農村基本法において、新たに第46条に農福連携の推進が位置づけられた。

R6
(2024)

「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」決定

- 地域ごとの課題への対応や認知度の更なる向上等に向けて、農福連携等推進会議において、「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」(R6.6)を決定。「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指し、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省の連携により、取組をさらに深めていくこととされた。



農場全景
(白鳩会より)



ミニトマトの収穫作業
(岡山県農商より)



ノウフクJAS



農福連携等推進会議

地域資源活用価値創出推進・整備事業（農福連携型）

農福連携の推進

【事業実施主体】

- ・農林水産業を営む法人
- ・社会福祉法人
- ・特定非営利活動法人
- ・医療法人
- ・一般社団法人
- ・一般財団法人
- ・公益社団法人
- ・公益財団法人
- ・地域協議会※
- ・民間企業 ほか



※地域協議会の構成員に
市町村を含むこと
※個人に対する助成は
できません

- ・課題の把握
- ・事例の蓄積
- ・専門人材による助言

都道府県

- 農福連携に取り組もうとする農業法人と福祉事業所のマッチングや職場定着を支える専門人材を育成・派遣

- このほか、全国的な普及啓発や官民一体での取組により農福連携の認知度の向上及び取組を促進

< 整備事業（ハード） >

○農林水産物生産施設等の整備

障害者や生活困窮者等の雇用・就労、高齢者の生きがいづくりやリハビリを目的とした農林水産物生産施設（農園、園路の整備を含む）、農林水産物加工販売施設、休憩所、衛生設備、安全設備等の整備に必要な経費を支援

事業実施期間：2年以内
交付率等：1/2
上限：簡易整備（200万円）、介護・機能維持（400万円）、高度経営（1,000万円）、経営支援（2,500万円）

【整備事業の主な要件】

- ・原則、農福連携支援事業と併せて行うこと。ただし、条件を満たす場合には整備事業単独での実施が可能
- ・農林水産分野の作業に携わる障害者、生活困窮者（就労に向けた支援計画策定者）、高齢者（要介護認定者）、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者を事業実施3年目までに5名以上増加させること。ただし、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者の増加については障害者との組み合わせであって、過半数が障害者であること
- ・農林水産物加工販売施設に供する農林水産物は、事業実施主体及び連携する者が生産したものが過半を占めること

< 農福連携支援事業（ソフト） >

○技術習得や分業体制の構築

作業の効率化や生産物の品質向上等、農福連携を持続するための取組、ユニバーサル農園（農業分野への就業を希望する障害者等に対し、職業訓練的体験を提供する農園。）の開設、移動可能なトイレのリース導入等に必要な経費を支援

- ・専門家の指導による農産物等の生産・加工技術、販売・経営手法等の習得を行うための研修、視察等
- ・ユニバーサル農園の運用初期に必要な管理・指導者の配置、農産物栽培に要する消耗資材等
- ・分業体制の構築、作業手順の図化、マニュアル作成

（注）雇用・就労する障害者等の賃金や法人運営費は助成対象外

※条件を満たす場合には農福連携支援事業単独での実施が可能

事業実施期間：2年間
（+自主取組：1年間）
交付率等：定額
上限：150万円/年、
300万円/年（整備事業
の経営支援を実施
する場合）

※ マニュアル作成は、初年度に40万円を加算可能

【農福連携支援事業のみ利用する場合の主な要件】

- ・農林水産分野の作業に携わる障害者、生活困窮者（就労に向けた支援計画策定者）、高齢者（要介護認定者）、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者を事業実施3年目までに3名以上増加させること。ただし、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者の増加については障害者との組み合わせであって、過半数が障害者であること

< 農福連携支援事業のうち地域協議会の設立及び体制整備（ソフト） >

○地域協議会の設立及び体制整備

地域協議会が地域における農福連携の推進のために行う、調査、先進地視察、意見交換会、ワークショップの実施、活動計画の策定等に必要な経費を支援

※農福連携支援事業単独での実施が可能

事業実施期間：2年間
（+自主取組：1年間）
交付率等：定額
上限：300万円/年

【地域協議会の設立及び体制整備を利用する場合の要件】

- ・事業実施3年目までに地域協議会の構成員として新たに農福連携に取り組む主体を3団体以上増加させること
- ・事業実施3年目までに地域における農福連携の取組主体数の拡大に向けた活動計画を策定すること

< 都道府県専門人材育成支援事業（ソフト） >

○農福連携を支援する人材の育成

農林水産業の現場における障害者等の雇用・就労に関してアドバイスする農福連携技術支援者※、障害者就労施設等による農作業請負（施設外就労）のマッチングを支援する人材（施設外就労コーディネーター）等の育成に必要な経費を支援

※ 農林水産省のガイドラインに基づく研修を受講し、認定された者

事業実施期間：1年間
交付率等：定額
上限：500万円/年

ノウフク・アワードについて

- 全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。
- 令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催し、「みんなで耕そう！」をスローガンに、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰。
- これまでの4年間で、のべ88件(40都道府県)が受賞。

取組概要

- ・応募対象：全国で農福連携に取り組んでいる団体等
- ・選定方法：「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」との観点から、優れた取組に対して以下の賞を授与
「グランプリ」、「準グランプリ」、「優秀賞」
「フレッシュ賞」(取組開始5年以内の優れた取組)
「チャレンジ賞」(「農」や「福」の広がりに向けた取組)
- ・審査員： 中嶋 康博 〓 東京大学大学院農学生命科学研究科教授(審査員長)
濱田 健司 〓 東海大学文理総合学部教授
松森 果林 〓 ユニバーサルデザインアドバイザー
村木 厚子 〓 津田塾大学総合政策学部客員教授
米田 雅子 〓 東京工業大学環境・社会理工学院特任教授
- ・主催：農福連携等応援コンソーシアム(事務局：農林水産省)

農福連携の優れた取組の横展開へ



「ノウフク・アワード2023」表彰24団体

No.1 長野県 松川町

株式会社ウィズファーム

- ・障害者の賃金向上をめざして農業法人を設立し、地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、地域の中心となる担い手に成長
- ・ノウフクJASの初めての認証事業者として農福連携の認知度向上と販路拡大に貢献

グランプリ

No.3 広島県 広島市

広島県立広島特別支援学校

- ・生徒の障害特性ごとに配慮した農業を指導
- ・近隣の農業高校から技術指導を受けて、学校内の園地で農業を実施し、地域の高齢者に販売
- ・障害を持つ生徒が、地域の小学校で児童への農業指導を実施

準グランプリ
(人を耕す)

No.5 福井県 あわら市

有限会社あわら農楽ファーム

- ・全国に先がけてスマート農業を活用した農福連携（障害者がロボット田植機による田植えや、アシスト付コンバインによる稲刈り等を実施）を行い、農地面積は85haに拡大
- ・地域農家の農業受託や除草作業を障害者が実施

準グランプリ
(未来を耕す)

No.6 宮城県 松島町

有限会社F.F磯崎

- ・地域の就労継続支援A型事業所から、約20名の障害者を受け入れ、水稲栽培（約60ha）や牡蠣の養殖を実施

優秀賞

No.7 茨城県 つくば市

NPO法人ユアフィールドつくば

- ・約15haの荒廃農地を再生し、障害の種別や年齢も様々な約100名の障害者が農業を実施

優秀賞

No.8 岐阜県 岐阜市

株式会社LSふあーむ

- ・農業や6次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命しており、障害者が商品開発にも従事

優秀賞

No.9 三重県 松阪市

社会福祉法人まつさか福祉会

- ・高収益のいちご栽培や6次産業化などにより、生活介護などの重度障害者を含めた賃金向上を実現。ASIAGAPも取得

優秀賞

No.10 京都府 京都市

株式会社しんやさい

- ・職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者が、ジョブコーチの資格を取得し、若手障害者の指導を実施

優秀賞

No.2 奈良県 奈良市

社会福祉法人青葉仁会

- ・農業のほか、加工業、販売業などの様々な業種の作業を通じて障害者の成長や経済的自立を支援し、40名以上が一般就労に移行
- ・過疎化が進む地域においてカフェ、レストラン、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開

グランプリ

No.4 福岡県 久留米市

一般社団法人THE CHALLENGED

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等の多様な人材が活躍できる環境を整備し、10名以上が一般就労に移行
- ・認定農業者として地域最大級の花き生産者となるとともに、地域の約170件の農家から受託した作業を障害者等が実施

準グランプリ
(地域を耕す)

No.19 東京都 世田谷区

夢育て農園

- ・農業を通じた知的・発達障害者の認知発達プログラムを提供し、定量的な効果測定も実施

チャレンジ賞

No.22 愛媛県 伊予市

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班

- ・地域の福祉団体と連携して、障害者や高齢者と共に農業を実施。地域企業と連携して新商品を開発

チャレンジ賞

No.15 岐阜県 岐阜市

全国農業協同組合連合会岐阜県本部

- ・JA全農の直営農場において、直接雇用した障害者がいちご栽培を実施し、地域のいちご部会にも入会

フレッシュ賞

No.17 宮崎県 高千穂町

株式会社杉本商店

- ・椎茸専門問屋として、原木椎茸の栽培や加工を福祉事業所に委託し、23 カ国に輸出

フレッシュ賞

No.20 大阪府 高槻市

特定非営利活動法人たかつき

- ・認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくりや、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施

チャレンジ賞

No.23 福岡県 福岡市

一般社団法人社会福祉支援協会

- ・人手不足で廃業寸前であった水産加工業会社の事業を承継し、障害者が担い手として作業に従事

チャレンジ賞

No.11 岡山県 岡山市

株式会社おおもりの農園

- ・新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大

優秀賞

No.12 大分県 竹田市

社会福祉法人博愛会

- ・農業に加えて、コミュニティレストランの開設、交通手段を持たない高齢者対象の無料送迎、地域の祭りの復活等を実施

優秀賞

No.13 北海道 札幌市

株式会社ファーストマインド

- ・JA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施

フレッシュ賞

No.14 静岡県 浜松市

ひらまつファーム

- ・個人農家として、福祉事業所に作業委託を行うことで、栽培面積の拡大、収益向上を実現

フレッシュ賞

No.16 高知県 安芸市

一般社団法人こうち絆ファーム

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等を受け入れ農業を実施し、新規就農者も誕生

フレッシュ賞

No.18 北海道 当別町

社会福祉法人ゆうゆう

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、認知症高齢者、地域住民等が農業や林業を通して交流

チャレンジ賞

No.21 奈良県 橿原市

一般財団法人かがやきホーム

- ・奈良県が設立した更生支援施設で、刑務所出所者を雇用し、森林組合等で研修を実施

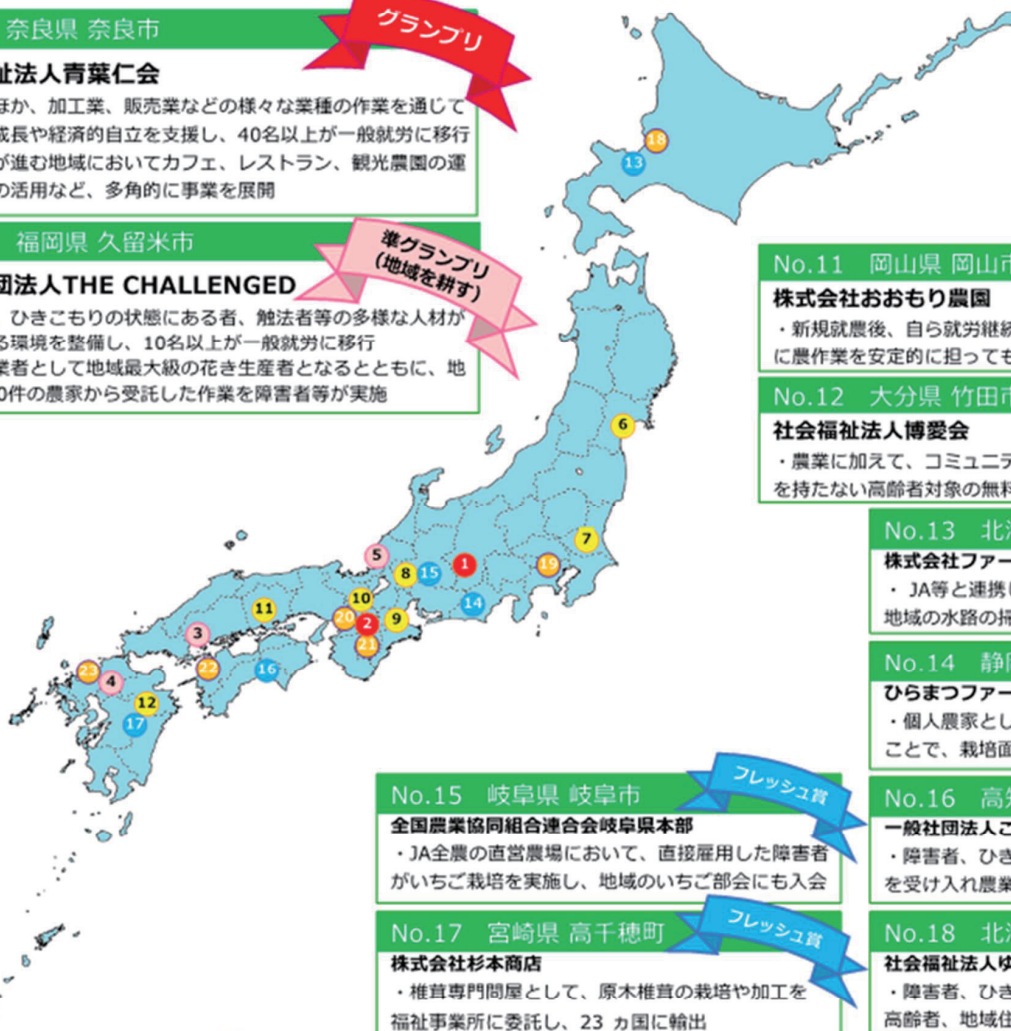
チャレンジ賞

No.24 沖縄県 北中城村

合同会社ソルファコミュニティ

- ・荒廃農地を再生して、障害者が国内で珍しいバニラ栽培を実施。地域の中心経営体として位置づけ

チャレンジ賞



農福連携の認知度向上のための取組

ノウフクウィーク2023 令和5年10月23日▶11月30日

農福連携の更なる普及・啓発を目的に、全国30か所で農福連携に関するイベント等を集中的に行い、一元的にPRを実施。



ノウフクフェア2023 @農林水産省

令和5年10月23日▶10月27日

フェア開催に先立ち、生産者を招いての試食会を実施し、農水大臣がノウフクJASをPR。

- ・食堂でのノウフクJASを中心とした限定メニューの提供
- ・「消費者の部屋」での展示・販売
- ・生協売店・書店での販売

厚生労働省、法務省、文部科学省において同時開催
農福連携メニューは20種以上！



ノウフク見本市(商談会) 令和5年8月24日

全国の農福連携に取り組む事業者と、卸業者や物流業者をマッチングさせる商談会を実施。

取組成果 ▶ スーパーとの取引が新たに開始

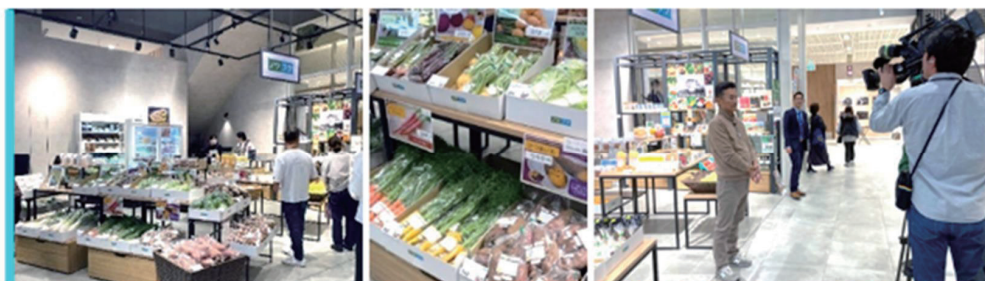


ノウフク・ショップ 令和5年11月11日▶26日

バイヤーセレクトの商品約150点を実店舗にて販売。併せてオンラインショップとしてECサイトを特設。

新宿マルイ

取組成果 ▶ 青果の卸売業者と継続的な取引が実現



※フジテレビ「Live News α」インタビューの様子

全国農福連携マルシェinぎふ

令和5年10月28日/10月29日

農福連携に取り組む事業者のノウフク商品の販売や農福連携の活動をPR。岐阜県農業フェスティバルとの同時開催により、約21万人が来場。

(農福連携全国都道府県ネットワークと農福連携等応援コンソーシアムの共催)

PR動画の作成・公開

農福連携とノウフクJASをテーマに2種類作成。
YouTube・Tver・InstagramにてCM放映。

(上)ウレシイ タノシイ オイシイ篇
(下)「エシカルな毎日」にノウフクJAS篇

